

第1期末 (2022年8月10日)

基準価額	8,989円
純資産総額	40億円
騰落率	△10.1%
分配金	0円

ニッセイ・ メタバースワールド (資産成長型)

追加型投信／内外／株式

運用報告書(全体版)

作成対象期間：2022年3月31日～2022年8月10日

第1期 (決算日 2022年8月10日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ニッセイ・メタバースワールド (資産成長型)」は、このたび第1期の決算を行いました。

当ファンドは、「ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド」受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

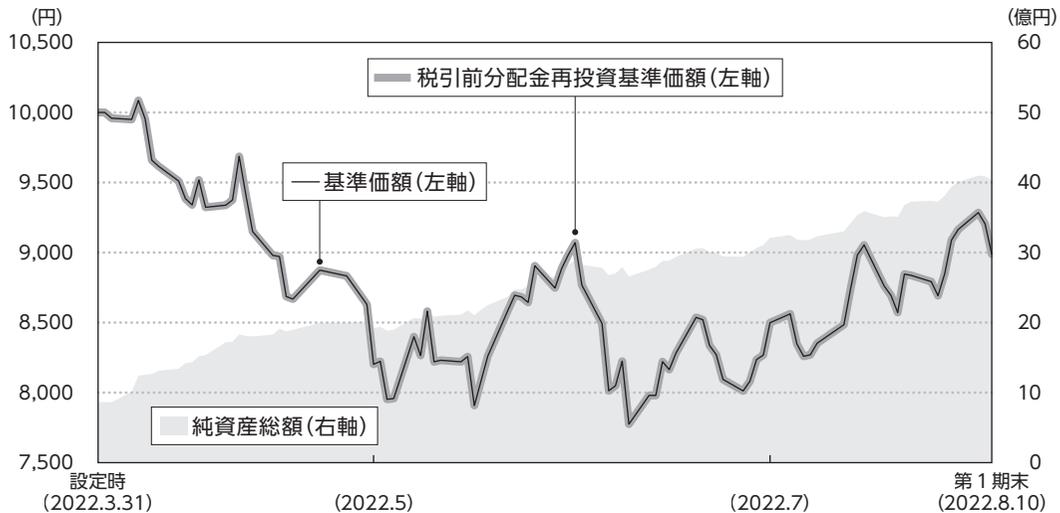
ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

運用経過

2022年3月31日～2022年8月10日

基準価額等の推移



設定時	10,000円	既払分配金	0円
第1期末	8,989円	騰落率(分配金再投資ベース)	△10.1%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、設定時の基準価額にあわせて指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

■基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・ 6月下旬から商品市況の一服などによるインフレのピークアウトへの期待感や米長期金利が落ち着いたこと
- ・ 世界的に金融緩和縮小が進み、内外金利差の拡大などから円安が進行したこと

<下落要因>

- ・ 設定時から5月中旬にかけて、米連邦準備制度理事会(FRB)の積極的な金融引き締め姿勢やロシア・ウクライナ情勢、中国のロックダウン(都市封鎖)長期化などがもたらすグローバル景気に対する懸念
- ・ 6月上旬から中旬にかけて、世界的な景気後退や金融引き締め加速への懸念

1万口当たりの費用明細

項目	第1期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	60円	0.691%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,717円です。
(投信会社)	(31)	(0.361)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(28)	(0.321)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(1)	(0.010)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	9	0.098	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
(株式)	(9)	(0.098)	売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	2	0.025	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
(株式)	(2)	(0.025)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	4	0.044	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(4)	(0.041)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	75	0.858	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

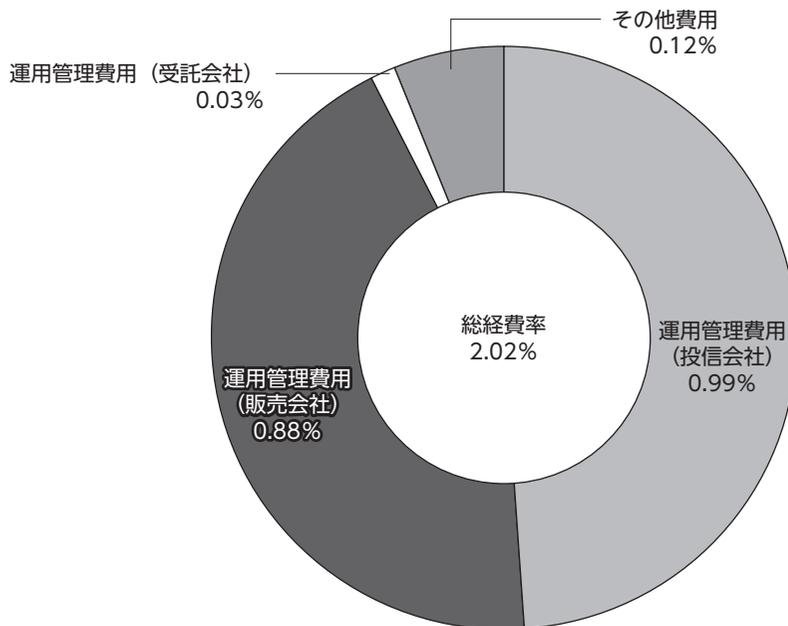
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

（参考情報）

■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は2.02%**です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

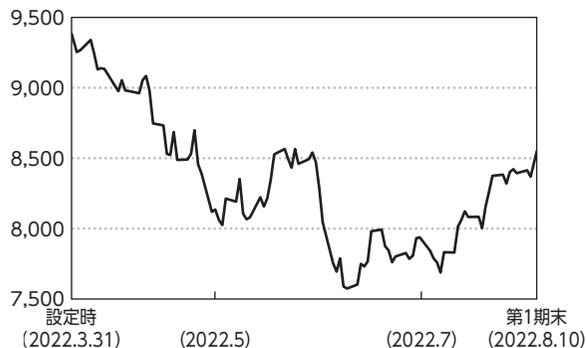
(注3) 各比率は年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

投資環境

■海外株式市況

【 MSCI World
（配当込み、米ドルベース）の推移 】



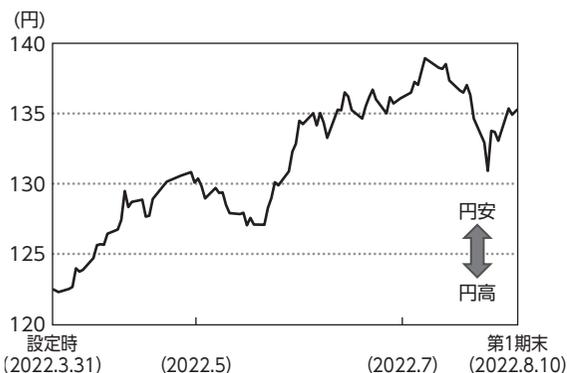
(注) 指数はブルームバークのデータを使用しています。

海外株式市場は期を通じて見ると下落しました。

設定時以降、FRBが積極的な金融引き締めを進め、新型コロナウイルス禍での上昇をけん引してきたグロース（成長）株が大きく下落する傾向となり、セクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の動きが見られました。特にロシア・ウクライナ情勢の悪化により世界的にエネルギー価格が高騰するなど、インフレ懸念と相まって金融市場で投資家のリスク回避姿勢が強まりました。また、中国のロックダウン長期化やインフレによる消費への悪影響、エネルギーを巡る混乱などからグローバル景気に対する懸念も高まり株価は下落しました。7月以降は原油を中心とした商品市況の落ち着きから過度なインフレ懸念が後退したことや、米長期金利の低下、米主要テクノロジー企業の好業績などを下支えに株価は上昇し、それまでの下げ幅を縮めました。

■為替市況

【米ドル／円レートの推移】



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータを使用しています。

米ドル／円相場は期を通じて見ると米ドル高円安となりました。

設定時以降、FRBが金融引き締めに積極的な姿勢であったことから米ドル高が進行し、日米中央銀行の政策スタンスの明確な相違も円安に拍車をかけ、主要通貨に対して大きく円安となりました。その後はインフレ懸念の後退や米長期金利の低下などから、円を買い戻す動きもみられたものの、世界的な金融引き締め加速と金融緩和策の維持を続ける日銀との方向性の相違から、円を売る動きが強くなり米ドル高円安基調で推移しました。

ポートフォリオ

■当ファンド

マザーファンド受益証券の組み入れを高位に保った運用を行いました（ただし、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドとは必ずしも一致しません）。

■マザーファンド

日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

当期末における業種配分は、組入比率の高い順に情報技術（66.4%）、コミュニケーション・サービス（21.7%）、金融（3.2%）としています。

当期末における国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ（78.4%）、中国（4.6%）、フランス（2.7%）としています。

- (注1) メタバースとはメタ（meta：超越）とユニバース（universe：世界）を組み合わせた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。
- (注2) 業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。
- (注3) 比率は対純資産総額比です。
- (注4) 国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ベンチマークとの差異

当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。このため、コンセプトに適った指数が存在しないことから、ベンチマークなどを設けていません。

分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期	
	2022年3月31日～2022年8月10日	
当期分配金（税引前）	—	
対基準価額比率	—	
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	1円	

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

■マザーファンド

当マザーファンドは長期的な視点で、今後、大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当マザーファンドでは時価総額などで規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては「メタバース」をキーワードとして業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視しています。同時に株価バリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）を考慮し、相対的にバリュエーションが高すぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しています。今後も、「メタバース」をキーワードに長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上することができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

■組入ファンド

	第1期末 2022年8月10日
ニッセイ・メタバースワールド マザーファンド	100.0%

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全ファンドを記載しています。

■純資産等

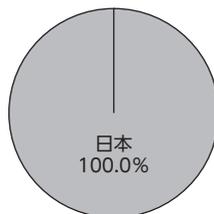
項目	第1期末 2022年8月10日
純資産総額	4,034,267,350円
受益権総口数	4,488,007,258口
1万口当たり基準価額	8,989円

(注) 当期間中における追加設定元本額は3,654,227,336円、同解約元本額は30,799,417円です。

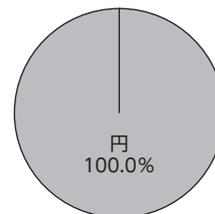
■資産別配分



■国別配分



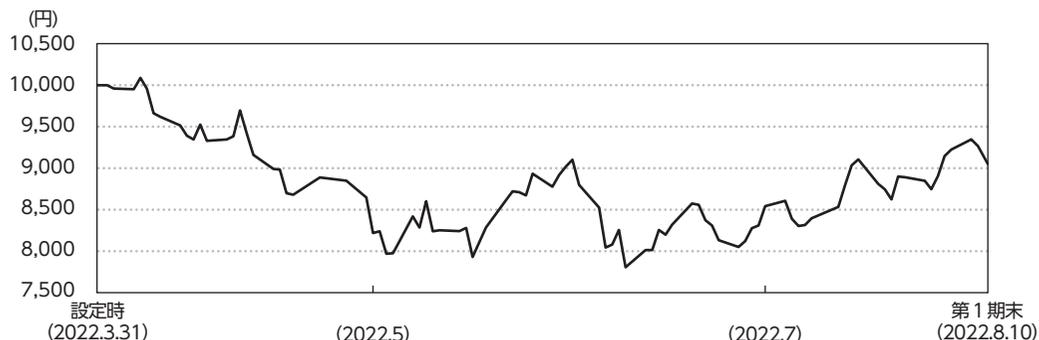
■通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2022年8月10日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ニッセイ・メタバースワールドマザーファンドの概要

■基準価額の推移



■上位銘柄

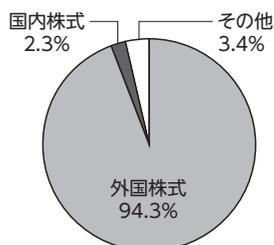
銘柄名	通貨	比率
QUALCOMM INC	米ドル	4.2%
ROBLOX CORP -CLASS A	米ドル	3.9
SKYWORCS SOLUTIONS INC	米ドル	3.4
META PLATFORMS INC-A	米ドル	3.3
COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	米ドル	3.2
AUTODESK INC	米ドル	3.1
TEXAS INSTRUMENTS INC	米ドル	2.9
MICROSOFT CORP	米ドル	2.8
CADENCE DESIGN SYSTEMS INC	米ドル	2.8
APPLE INC	米ドル	2.8
組入銘柄数		43

■1万口当たりの費用明細

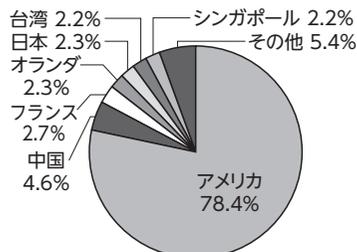
2022.3.31～2022.8.10

項目	金額
売買委託手数料 (株式)	9円 (9)
有価証券取引税 (株式)	2 (2)
その他費用 (保管費用) (その他)	4 (4) (0)
合計	14

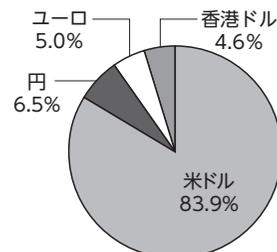
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2022年8月10日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税引前 分配金	期中 騰落率	(ご参考) 基準価額+ 累計分配金	株式 組入比率	純資産 総額
(設定日)	円	円	%	円	%	百万円
2022年3月31日	10,000	—	—	10,000	—	864
1期(2022年8月10日)	8,989	0	△10.1	8,989	96.6	4,034

(注1) 設定日の基準価額は当初設定価額を記載しています。以下同じです。

(注2) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注3) 「基準価額+累計分配金」は、当該決算期の基準価額（分配落）に当該決算期以前の税引前分配金の累計額を加えたものです。

(注4) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。以下同じです。

(注5) 設定日の純資産総額は当初設定元本を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	株式
			組入比率
	円	%	%
(設定日)2022年3月31日	10,000	—	—
3月末	10,000	0.0	1.9
4月末	8,668	△13.3	94.6
5月末	8,695	△13.1	96.6
6月末	8,271	△17.3	94.6
7月末	8,837	△11.6	94.4
(期末)2022年8月10日	8,989	△10.1	96.6

(注) 期末基準価額は分配金（税引前）込み、騰落率は設定日比です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

2022年3月31日～2022年8月10日

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	4,508,391	4,120,177	50,401	45,316

(注) 単位未満は切り捨てています。

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	4,912,061千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,565,664千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	1.91

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) 外国株式の(a)は各月末（決算日の属する月については決算日）、(b)は各月末の国内の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

利害関係人との取引状況等

2022年3月31日～2022年8月10日

当期における利害関係人との取引はありません。

親投資信託残高

2022年8月10日現在

種類	当期末	
	口数	評価額
	千口	千円
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	4,457,989	4,034,480

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末におけるニッセイ・メタバースワールドマザーファンド全体の口数は5,442,669千口です。

投資信託財産の構成

2022年8月10日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	4,034,480	99.0
コール・ローン等、その他	40,039	1.0
投資信託財産総額	4,074,520	100.0

(注1) 外貨建資産は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお8月10日における邦貨換算レートは、1米ドル135.25円、1香港ドル17.23円、1ユーロ138.08円です。

(注2) ニッセイ・メタバースワールドマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（4,604,254千円）の投資信託財産総額（4,995,405千円）に対する比率は92.2%です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2022年8月10日現在)

項目	当期末
(A) 資産	4,074,520,037円
コール・ローン等	16,094,399
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド(評価額)	4,034,480,797
未収入金	23,944,841
(B) 負債	40,252,687
未払解約金	22,897,477
未払信託報酬	17,273,260
その他未払費用	81,950
(C) 純資産総額(A-B)	4,034,267,350
元本	4,488,007,258
次期繰越損益金	△ 453,739,908
(D) 受益権総口数	4,488,007,258口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,989円

(注1) 設定元本額 864,579,339円
 期中追加設定元本額 3,654,227,336円
 期中一部解約元本額 30,799,417円

(注2) 元本の欠損
 純資産総額は元本額を下回っており、その差額は453,739,908円です。

損益の状況

当期（2022年3月31日～2022年8月10日）

項目	当期
(A) 配当等収益	△ 651円
受取利息	53
支払利息	△ 704
(B) 有価証券売買損益	△ 40,378,624
売買益	937,830
売買損	△ 41,316,454
(C) 信託報酬等	△ 17,355,231
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 57,734,506
(E) 追加信託差損益金*	△ 396,005,402
(配当等相当額)	(△ 223)
(売買損益相当額)	(△ 396,005,179)
(F) 合計(D+E)	△ 453,739,908
次期繰越損益金(F)	△ 453,739,908
追加信託差損益金	△ 396,005,402
(配当等相当額)	(464,390)
(売買損益相当額)	(△ 396,469,792)
繰越欠損金	△ 57,734,506

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。

(注3) (E)追加信託差損益金*とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。設定時の金額に、期中追加設定および一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

分配金の計算過程

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0円
(c) 信託約款に定める収益調整金	464,390円
(d) 信託約款に定める分配準備積立金	0円
(e) 分配対象額 (a + b + c + d)	464,390円
(f) 分配対象額 (1万口当たり)	1.03円
(g) 分配金	0円
(h) 分配金 (1万口当たり)	0円

お知らせ

■ 自社による当ファンドの設定解約状況

当期 設定元本	当期 解約元本	当期末残高			取引の理由
		元本	評価額	比率	
百万円	百万円	百万円	百万円	%	
50	-	50	44	1.1	当初設定時における取得

(注) 元本および評価額の単位未満は切り捨てています。なお当社は自社による当ファンドの保有分を解約することがあります。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2022年3月31日～2032年8月10日	
運 用 方 針	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	ニッセイ・メタバースワールド（資産成長型）	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド受益証券
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	日本を含む各国の株式
運用方法	ニッセイ・メタバースワールド（資産成長型）	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。	

ニッセイ・メタバースワールド マザーファンド

運用報告書

第 1 期

(計算期間：2022年3月31日～2022年8月10日)

運用方針

- ①主に日本を含む各国の株式等を主要投資対象とし、仮想現実関連技術を含むメタバース関連ビジネスを行う企業の株式に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。
- ②仮想現実関連技術を含むメタバース関連ビジネスを行う企業のなかから、メタバース関連ビジネス拡大の恩恵を受け、今後、利益成長が期待できる銘柄に投資を行います。

主要運用 対象

日本を含む各国の株式

運用方法

以下の様な投資制限のもと運用を行います。

- ・株式への投資割合には、制限を設けません。
- ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

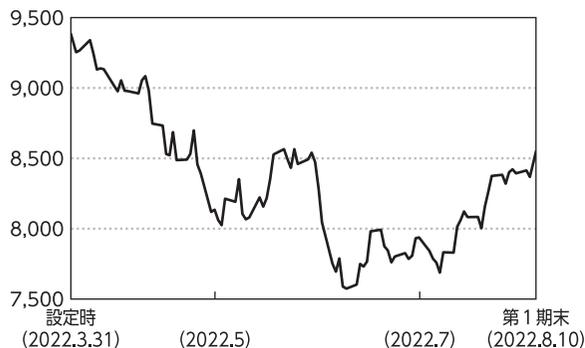
運用経過

2022年3月31日～2022年8月10日

投資環境

海外株式市況

【 MSCI World
(配当込み、米ドルベース)の推移 】



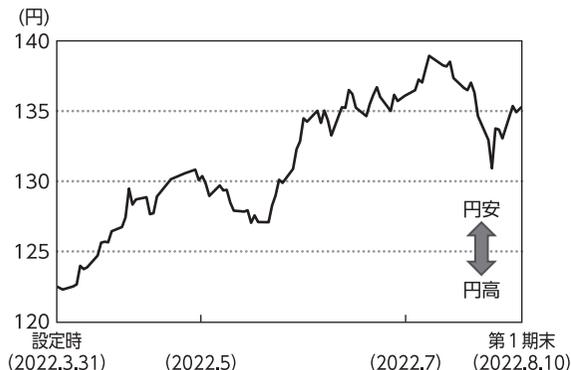
(注) 指数はブルームバーグのデータを使用しています。

海外株式市場は期を通じて見ると下落しました。

設定時以降、FRBが積極的な金融引き締めを進め、新型コロナウイルス禍での上昇をけん引してきたグロース（成長）株が大きく下落する傾向となり、セクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の動きが見られました。特にロシア・ウクライナ情勢の悪化により世界的にエネルギー価格が高騰するなど、インフレ懸念と相まって金融市場で投資家のリスク回避姿勢が強まりました。また、中国のロックダウン長期化やインフレによる消費への悪影響、エネルギーを巡る混乱などからグローバル景気に対する懸念も高まり株価は下落しました。7月以降は原油を中心とした商品市況の落ち着きから過度なインフレ懸念が後退したことや、米長期金利の低下、米主要テクノロジー企業の好業績などを下支えに株価は上昇し、それまでの下げ幅を縮めました。

為替市況

【米ドル／円レートの推移】



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータを使用しています。

米ドル／円相場は期を通じて見ると米ドル高円安となりました。

設定時以降、FRBが金融引き締めに積極的な姿勢であったことから米ドル高が進行し、日米中央銀行の政策スタンスの明確な相違も円安に拍車をかけ、主要通貨に対して大きく円安となりました。その後はインフレ懸念の後退や米長期金利の低下などから、円を買い戻す動きもみられたものの、世界的な金融引き締め加速と金融緩和策の維持を続ける日銀との方向性の相違から、円を売る動きが強く米ドル高円安基調で推移しました。

基準価額等の推移



(注) 当マザーファンドはベンチマークを設けていません。

■ 基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・ 6月下旬から商品市況の一服などによるインフレのピークアウトへの期待感や米長期金利が落ち着いたこと
- ・ 世界的に金融緩和縮小が進み、内外金利差の拡大などから円安が進行したこと

<下落要因>

- ・ 設定時から5月中旬にかけて、米連邦準備制度理事会（F R B）の積極的な金融引き締め姿勢やロシア・ウクライナ情勢、中国のロックダウン（都市封鎖）長期化などがもたらすグローバル景気に対する懸念
- ・ 6月上旬から中旬にかけて、世界的な景気後退や金融引き締め加速への懸念

ポートフォリオ

日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

当期末における業種配分は、組入比率の高い順に情報技術（66.4%）、コミュニケーション・サービス（21.7%）、金融（3.2%）としています。

当期末における国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ（78.4%）、中国（4.6%）、フランス（2.7%）としています。

(注1) メタバースとはメタ（meta：超越）とユニバース（universe：世界）を組み合わせた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。

(注2) 業種はG I C S分類（セクター）によるものです。なお、G I C Sに関する知的財産所有権はS & PおよびMSCI Inc.に帰属します。

(注3) 比率は対純資産総額比です。

(注4) 国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ベンチマークとの差異

当マザーファンドは、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。このため、コンセプトに適った指数が存在しないことから、ベンチマークなどを設けていません。

今後の運用方針

当マザーファンドは長期的な視点で、今後、大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当マザーファンドでは時価総額などで規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては「メタバース」をキーワードとして業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視しています。同時に株価バリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）を考慮し、相対的にバリュエーションが高すぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しています。今後も、「メタバース」をキーワードに長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上することができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

設定以来の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率		株式組入比率	純資産総額
(設定日)	円		%	%	百万円
2022年3月31日	10,000		—	—	1,115
1期(2022年8月10日)	9,050		△9.5	96.6	4,925

(注1) 設定日の基準価額は当初設定価額を記載しています。以下同じです。

(注2) 設定日の純資産総額は当初設定元本を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		株式組入比率
	円		%	%
(設定日)2022年3月31日	10,000		—	—
3月末	10,000		0.0	1.9
4月末	8,680		△13.2	94.6
5月末	8,722		△12.8	96.6
6月末	8,309		△16.9	94.6
7月末	8,891		△11.1	94.4
(期末)2022年8月10日	9,050		△ 9.5	96.6

(注) 騰落率は設定日比です。

1万口当たりの費用明細

2022年3月31日～2022年8月10日

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式)	9円 (9)	0.098% (0.098)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
有価証券取引税 (株式)	2 (2)	0.025 (0.025)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用 (保管費用)	4 (4)	0.041 (0.040)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	14	0.164	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（8,746円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

売買および取引の状況

2022年3月31日～2022年8月10日

株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株 4	千円 121,785	千株 -	千円 -
	アメリカ	百株 4,641 (98)	千米ドル 32,770	百株 -	千米ドル -
外国	香港	2,697	千香港ドル 14,894	-	千香港ドル -
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	オランダ	15	851	-	-
	フランス	230	941	-	-

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) () 内は株式分割、合併などによる増減分で、上段の数字には含まれていません。

(注3) 地域は発行通貨によって区分しています。以下同じです。

(注4) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

主要な売買銘柄

2022年3月31日～2022年8月10日

株式

銘柄	買付			銘柄	売付		
	株数	金額	平均単価		株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
QUALCOMM INC	10	198,738	18,620	-	-	-	-
COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	13	188,891	14,137				
META PLATFORMS INC-A	7	186,218	26,168				
SKYWORKS SOLUTIONS INC	11	174,402	15,124				
ROBLOX CORP -CLASS A	29	159,793	5,331				
NVIDIA CORP	5	140,220	27,893				
AUTODESK INC	5	136,803	26,471				
TEXAS INSTRUMENTS INC	6	136,380	22,594				
MICROSOFT CORP	3	134,014	36,796				
ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A	9	133,341	14,672				

(注1) 金額は受渡代金で、外国株式は各月末（決算日の属する月については決算日）における国内の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

(注2) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

組入有価証券明細表

2022年8月10日現在

(1) 国内株式
上場株式

銘柄	当期末	
	株数	評価額
	千株	千円
電気機器(33.9%)		
ソニーグループ	3	38,114
その他製品(66.1%)		
任天堂	1	74,178
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	4 112,292 2 <2.3%>

(注1) 銘柄欄の()内は、当期末における国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 合計欄の< >内は、当期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 株数および評価額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および評価額が単位未満の場合は、小数で記載しています。以下同じです。

(2) 外国株式

銘柄	当期末			業種等
	株数	評価額		
		外貨建金額	邦貨換算金額	
	百株	千米ドル	千円	
(アメリカ)				
ADOBE INC	21	907	122,771	ソフトウェア・サービス
ADVANCED MICRO DEVICES INC	95	909	123,041	半導体・半導体製造装置
AKAMAI TECHNOLOGIES INC	71	676	91,482	ソフトウェア・サービス
ALPHABET INC-CL A	77	898	121,571	メディア・娯楽
AMAZON.COM INC	58	808	109,332	小売
APPLE INC	61	1,006	136,107	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
APPLIED MATERIALS INC	81	812	109,853	半導体・半導体製造装置
ARISTA NETWORKS INC	62	754	102,077	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
AUTODESK INC	51	1,127	152,473	ソフトウェア・サービス
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	197	793	107,307	ソフトウェア・サービス
BROADCOM INC	17	947	128,196	半導体・半導体製造装置
CADENCE DESIGN SYSTEMS INC	54	1,010	136,702	ソフトウェア・サービス
CIENA CORP	139	722	97,696	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	133	1,171	158,444	各種金融
ELECTRONIC ARTS INC	68	886	119,860	メディア・娯楽
IMMERSION CORPORATION	1,770	1,005	136,004	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MARVELL TECHNOLOGY INC	120	615	83,236	半導体・半導体製造装置
META PLATFORMS INC-A	71	1,199	162,199	メディア・娯楽

ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド

銘柄	当期末			業種等
	株数	評価額		
		外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	千米ドル	千円	
MICROSOFT CORP	36	1,028	139,055	ソフトウェア・サービス
NVIDIA CORP	50	858	116,168	半導体・半導体製造装置
QUALCOMM INC	106	1,521	205,716	半導体・半導体製造装置
ROBLOX CORP -CLASS A	299	1,419	191,943	メディア・娯楽
SAMSUNG ELECTRONICS-GDR 144A	6	727	98,351	半導体・半導体製造装置
SEA LTD-ADR	94	788	106,591	メディア・娯楽
SKYWORKS SOLUTIONS INC	115	1,231	166,546	半導体・半導体製造装置
SNAP INC - A	253	257	34,848	メディア・娯楽
SYNOPSYS INC	26	1,000	135,362	ソフトウェア・サービス
TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	93	800	108,285	半導体・半導体製造装置
TAKE-TWO INTERACTIVE SOFTWARE	56	680	92,100	メディア・娯楽
TERADYNE INC	94	878	118,873	半導体・半導体製造装置
TEXAS INSTRUMENTS INC	60	1,072	145,076	半導体・半導体製造装置
UNITY SOFTWARE INC	138	698	94,534	ソフトウェア・サービス
WALT DISNEY CO	62	677	91,681	メディア・娯楽
ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A	90	956	129,417	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	4,740 34	30,853 -	4,172,915 <84.7%>
(香港)		千香港ドル		
ALIBABA GROUP HOLDING LTD	253	2,266	39,058	小売
BAIDU INC-CLASS A	172	2,320	39,975	メディア・娯楽
NETEASE INC	305	4,233	72,941	メディア・娯楽
TENCENT HOLDINGS LTD	69	2,056	35,428	メディア・娯楽
XIAOMI CORP-CLASS B	1,898	2,232	38,458	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	2,697 5	13,108 -	225,862 <4.6%>
(ユーロ/オランダ)		千ユーロ		
ASML HOLDING NV	15	816	112,785	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	15 1	816 -	112,785 <2.3%>
(ユーロ/フランス)				
DASSAULT SYSTEMES SA	230	965	133,323	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	230 1	965 -	133,323 <2.7%>
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	245 2	1,782 -	246,109 <5.0%>
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	7,683 41	- -	4,644,886 <94.3%>

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 邦貨換算金額の< >内は、当期末の純資産総額に対する株式評価額の比率です。

(注3) 業種はGICS分類（産業グループ）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS & PおよびMSCI Inc.に帰属します。

投資信託財産の構成

2022年8月10日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
株式	4,757,178	95.2
コール・ローン等、その他	238,227	4.8
投資信託財産総額	4,995,405	100.0

(注1) 外貨建資産は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお8月10日における邦貨換算レートは、1米ドル135.25円、1香港ドル17.23円、1ユーロ138.08円です。

(注2) 外貨建純資産(4,604,254千円)の投資信託財産総額(4,995,405千円)に対する比率は92.2%です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2022年8月10日現在)

項目	当期末
(A)資産	5,041,224,577円
コール・ローン等	237,029,457
株式(評価額)	4,757,178,486
未収入金	45,824,188
未収配当金	1,192,446
(B)負債	115,821,155
未払金	91,649,579
未払解約金	24,170,609
その他未払費用	967
(C)純資産総額(A-B)	4,925,403,422
元本	5,442,669,223
次期繰越損益金	△ 517,265,801
(D)受益権総口数	5,442,669,223口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,050円

(注1) 設定元本額 1,115,695,181円
期中追加設定元本額 4,382,167,117円
期中一部解約元本額 55,193,075円

(注2) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。

ニッセイ・メタバースワールド(資産成長型) 4,457,989,831円
ニッセイ・メタバースワールド(予想配分金提示型) 984,679,392円

(注3) 元本の欠損
純資産総額は元本額を下回っており、その差額は517,265,801円です。

損益の状況

当期(2022年3月31日~2022年8月10日)

項目	当期
(A)配当等収益	5,156,426円
受取配当金	5,181,815
受取利息	2,691
その他収益金	514
支払利息	△ 28,594
(B)有価証券売買損益	△ 58,931,006
売買益	342,609,074
売買損	△ 401,540,080
(C)信託報酬等	△ 1,186,521
(D)当期損益金(A+B+C)	△ 54,961,101
(E)追加信託差損益金	△ 468,021,515
(F)解約差損益金	5,716,815
(G)合計(D+E+F)	△ 517,265,801
次期繰越損益金(G)	△ 517,265,801

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (E)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、元本を上回る場合は利益として、下回る場合は損失として処理されます。

(注3) (F)解約差損益金とは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。